

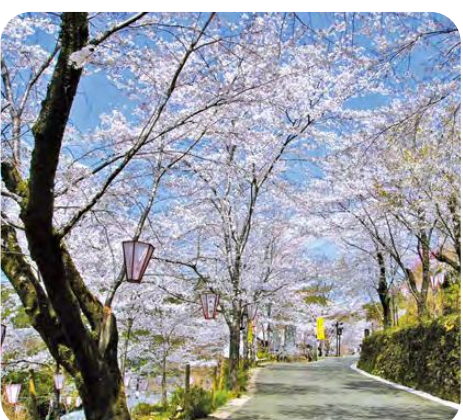
みんなでつくる総合計画 中間成果報告

— チームさかわの歩み 2021 —



目次

① 教育
② 産業と仕事
③ 結婚・出産・育児
④ 観光振興と情報発信
⑤ 健康と福祉
⑥ 安全・安心
⑦ 行財政

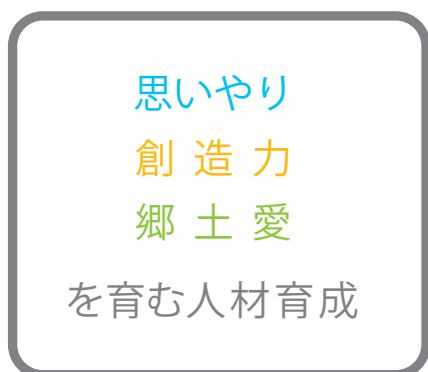


まじめに、おもしろく。

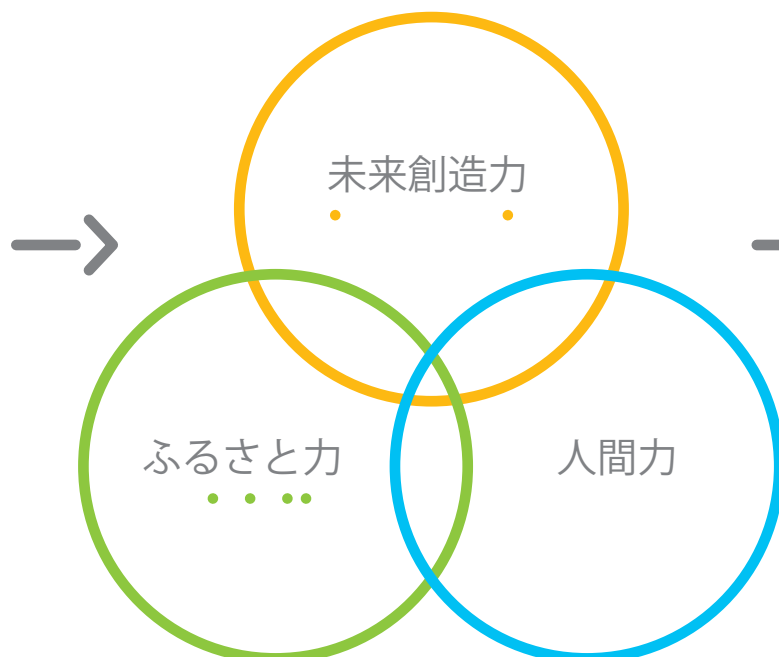
みんなでつくった第5次総合計画も折り返し地点。
5年間、町民一人ひとりの
「やってみよう」という気持ちが
存分に発揮されるまちづくりに
「チームさかわ」で取り組んできました。
こうした様々な取り組みの“今”を紹介します。

さかわ未来学

〈目的〉



〈育てる三つの力〉



〈成果〉



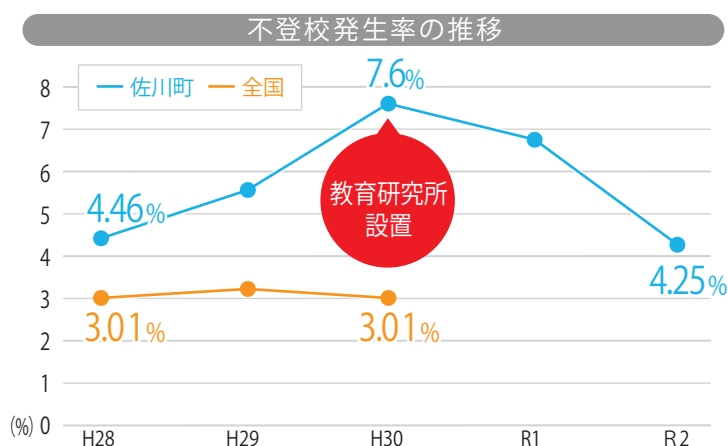
〈取り組み項目〉

- SAKA・WA-KU+電子書籍
- 佐川きゅうり
- 木工
- 林業
- 論語
- プログラミング教材
- Atelier for KIDs→非認知能力を育てる教育
- LITALICO→特別支援教育のための教育
- QUBENA→人工知能で学習を支援

未来創造教育
ふるさと教育
人間教育



〈教育の成果〉



〈教育研究所の取り組み内容〉

教員研修内容	
子ども理解の徹底	Q-Uアンケートと学校生活アンケートを活用、教員の意識と対応を転換
学級経営の改善	学級経営を安定
授業改善	内発性・関係性・創造性
保小連携強化・小中一貫教育	保育所との連携 → Atelier for KIDs
特別支援教育の充実	LITALICO社の手法(行動分析学)を導入



さくら咲くプロジェクト

〈活動内容〉

平成27年から、総合学習として「いのち輝け さくら咲くプロジェクト」が佐川高校で開始。「地域の学校として地域を支える人材を育成したい」という思いからこの学習は始まり、地域を知り、体験し、卒業時には生徒が自分の言葉で語れるようになることを目標に、3年計画で地域と連携して様々なことに取り組む。

〈目的〉

- ・地域社会に貢献する意欲を持つ人材の育成
- ・社会に出て必要な能力の育成
- ・自分が体験したこと・学んだことを自分の言葉で語れるようにする

3年間の学習内容

1年目

地域のリソース(資源)を学ぶ

- ・仲間づくり (プロジェクトアドベンチャー、リテラチャーサークル)
- ・地域学習 (佐川町内外の農家や観光施設、企業などを見学)

2年目

地域の仕事を体験する

- ・インターンシップ
- ・ボランティア
- ・コミュニケーション能力
- ・チームワーク
- ・計画的に実行する力
- ・課題解決能力
- ・粘り強く考える力

3年目

地域の課題解決のために提言する

1次産業、2次産業、3次産業の活性化・・・6次産業へ持続可能な産業の創出を目指して



放課後発明クラブ

〈活動内容〉

ものづくりや子ども同士の交流を通して自分の興味を発見し、その中でお互いを認め合う心や柔軟な判断力・発想力を育む活動。令和元年、子どもたちがさらに自発的にのびのびと発想できる場へと、内容をリニューアル。

〈目的〉

ものづくり体験ワークショップ「放課後発明クラブ」は、佐川町の子どもたちがのびのびと発想できる場を設け、「ものづくりを通して豊かな心を育んでもらいたい」という想いから発足。

会員数	平成29年	平成30年	令和元年
さかわ発明ラボ	37人	67人	100人
放課後発明クラブ	55人	69人	※ 29人

※発明クラブをリニューアルし、有料の定員制として内容を充実。



高知大学出前授業

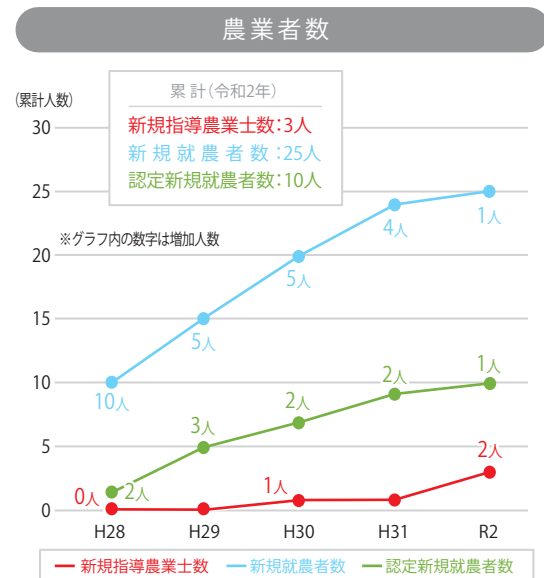
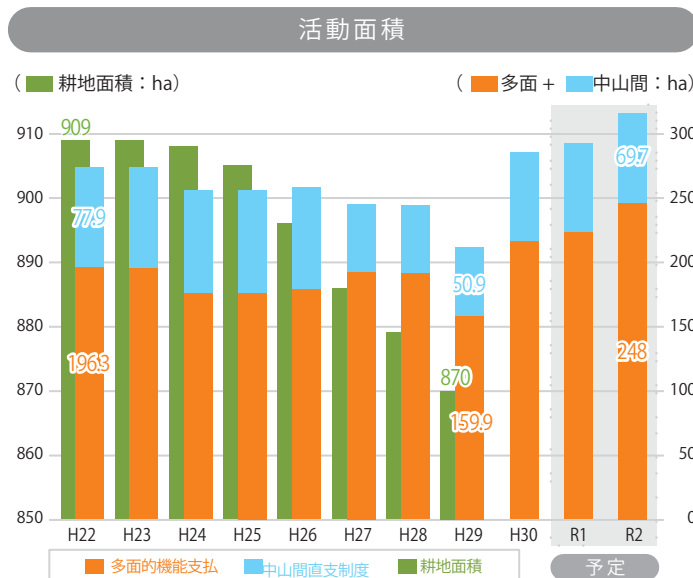
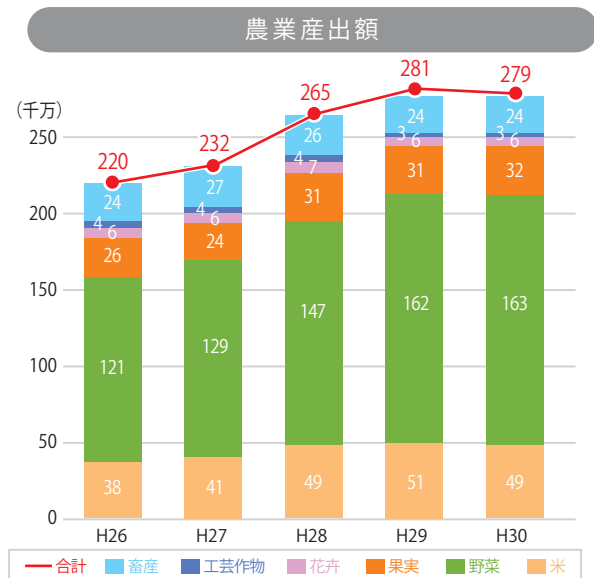
〈活動内容〉

大学の協力のもと、いろいろな学習の場を提供してもらっている。年に3回～5回、その都度テーマや講師を変え、時には野外授業も行うなど幅広い講座内容。

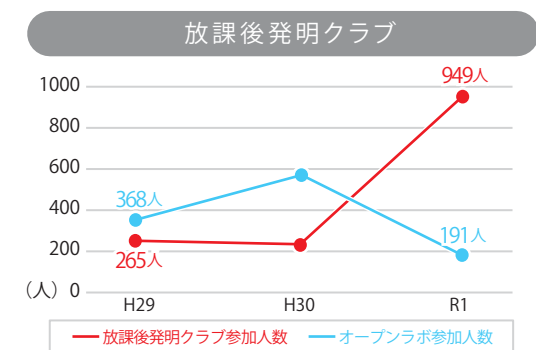
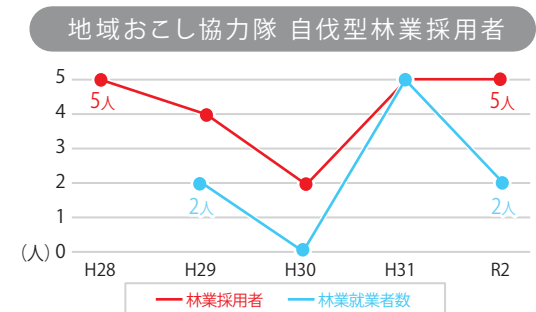
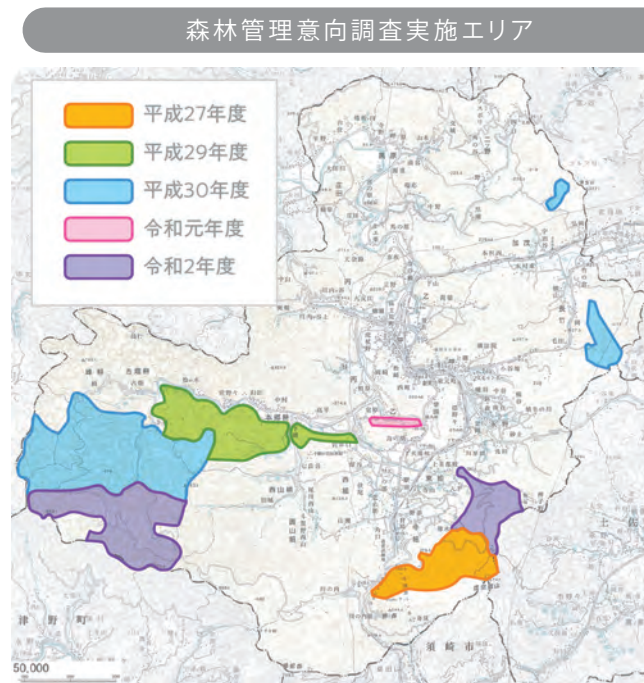
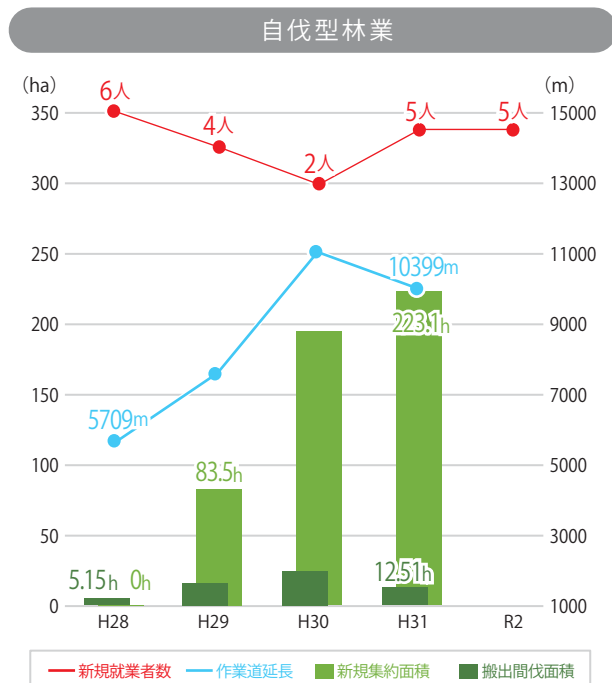
開催年	回数	人数(合計)	その年の代表的な講座
平成28年	5回	118人	発達障害を持つ幼児が穏やかに育つ保育へのヒント
平成29年	3回	91人	イタチ、リス、リボン、マキノ、サカワ...全部コケ!コケ植物の魅力～入門編～
平成30年	4回	118人	鳥の巣石灰岩から探るジュラ紀末の佐川
令和元年	3回	42人	中世山城の考古学～佐川町の山城～
令和2年	3回	63人	ニホンカワウソは日本固有種だったのか?



農業振興 (お茶・イチゴ・にら・しょうが、地ちち)



自伐型林業+ものづくり



チャレンジショップ

〈取り組み内容〉 1つの店舗を 2〜4つのお店がシェアしながら、将来の開業を目指し、お試しで開業できる施設。

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	合計
利用者数	2人	2人	2人	1人	7人
町内開業者数	0人	0人	2人	0人	2人

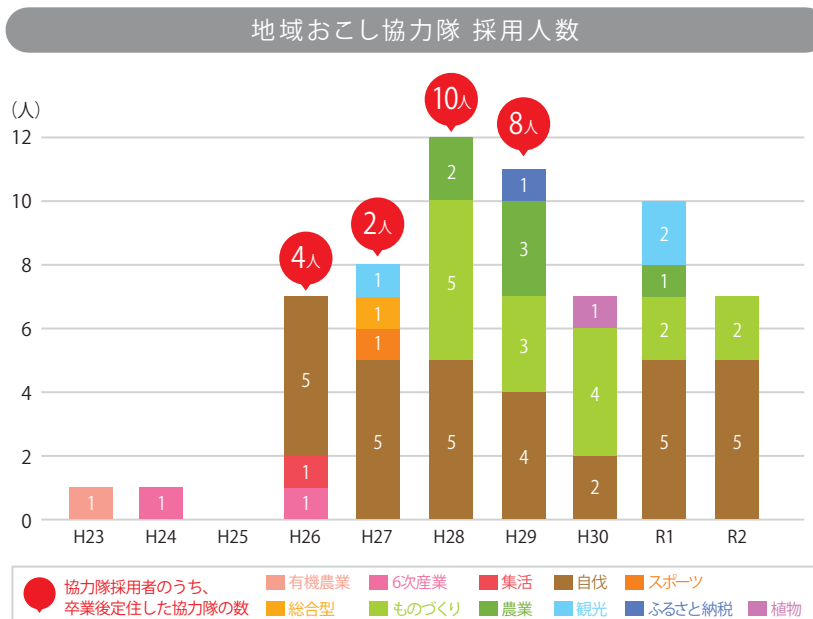
グローリープロダクツ誘致

平成28年3月から一部操業を開始しており、従業員50人を新規雇用。新工場の完成により、同社の製造拠点は福崎工場、加西工場、佐用工場、市川工場と合わせて5拠点となっており、町内工場でも雇用の拡大につながっている。



地域おこし協力隊

地域コミュニティ及び第一次産業の担い手不足という問題を解決するため、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域活性化に繋がる新たな発見や地域コミュニティの担い手として、また、新たな産業の創出等の取り組みを実践するため「地域おこし協力隊」の隊員を募集している。



子育て情報サイト

「さくらさいたねっと」は、結婚から妊娠・出産・子育てまで、さまざまな「知りたい」に対して情報が得られるサービス。

	平成30年	令和元年	令和2年	合計
閲覧数(1日)	1763件	4361件	5916件	12040件
メール相談数(1日)	1回	0回	0回	1回

〈知りたい〉

親と子どもを支える制度や情報を案内

- ・ひとり親家庭への支援制度や乳幼児健康診査など

〈相談したい〉

妊娠期から子育てまでのお悩み相談窓口

- ・子育て支援拠点『子育て世代包括支援センター』などの情報

〈交流したい〉

子育て世代とつながる情報を案内

- ・佐川町どんぐり会、児童館活動事業「わんぱく広場」など

〈困ったときは〉

総合的なサポート機関を紹介

- ・小児救急電話相談など

子育て世代包括支援センター、産後ヘルパー

〈取り組み内容〉

- ・全妊婦に対し妊娠期からの支援強化
- ・リスクアセスメント会議を毎月1回開催
- ・子育て支援の充実のための関係機関との協働
- ・産後ケア事業実施(利用者数: 実5人 延べ6人)

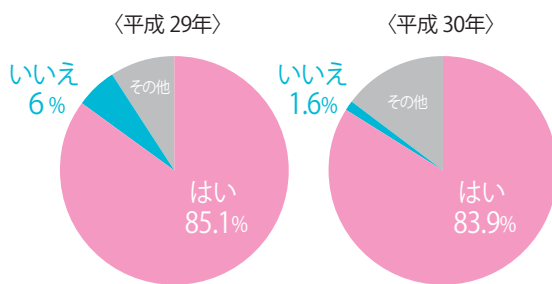
〈工夫点〉

- ・母子健康手帳交付時マニュアルや妊婦アンケートの見直し、妊婦・産婦用のセルフプラン作成・配布。
- ・妊娠中期に電話連絡、妊娠後期に自宅訪問を行い、産後の手続きの説明や不安要素などの確認を行う。
- ・母子保健部門と子育て支援センターの情報共有や事業企画のための連絡会の定期開催
- ・母乳育児を応援するために開業助産師との連絡会を実施。

〈課題〉

- ・支援者の質の向上
- ・予防的な関わりの必要性
- ・事業評価に基づく効果的な支援の検討
- ・家族や地域前提の認知度

〈取り組みの評価〉



助産師や保健師等からの指導・ケアを十分に受けることができた

コーディネーター相談実績	平成30年
妊婦面接数	86名
支援プラン作成数	78名
母子保健関係来所相談	88名

〈利用者・関係機関・担当職員の意見や感想〉

- ・専用の部屋ができたことによりゆっくり話することができる。
- ・妊婦訪問は母子手帳の交付時に提示していることやオムツの配布などもあり、受け入れはよく、妊娠中の支援強化になっている。
- ・妊娠中に訪問することで、退院後に産婦より連絡をくれるなど産後早期にかかわることができる。

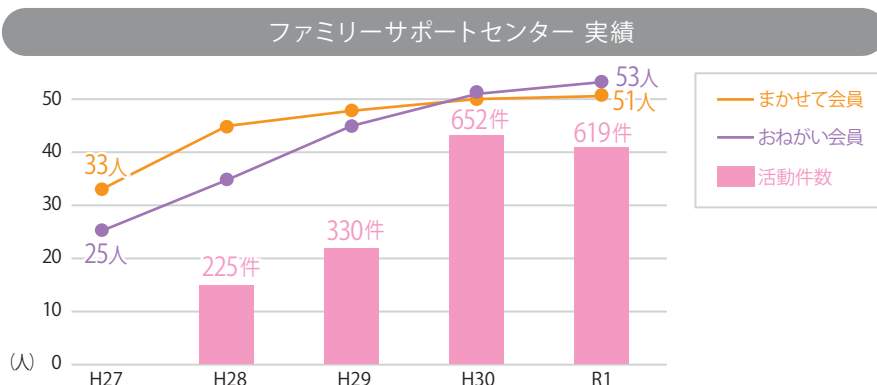
ファミリーサポートセンター

〈活動内容〉

会員登録制による乳幼児や小学校等の預かりの相互援助事業で、放課後・外出時の預かり・保育所送迎を行う。

〈課題〉

令和元年度の「おねがい会員」の利用実人員は10人、実働した「まかせて会員」は10人と、限定した人の利用や提供会員に留まっている。実働できる提供会員を増やす取り組みが必要となる。地域福祉の拠点、地域団体等や個別の働きかけ、初回利用料を無料にする等の取り組みをしていく。



ウッズスタート

〈活動内容〉

町産材利用の促進と合わせて、子どものころから木に触れ育つことで豊かな心を育む「木育」の取り組みを推進している。平成30年4月に「ウッズスタート宣言」をおこない、それ以降毎年、誕生祝い品として「積み木」をプレゼントして「木育」に取り組んでいる。

